肺腺末期透析患者のリビングウィルに関する研究を経験してきた

佐久間佳織
寺本 聖美
佐藤真由美
高橋 悠美
小林雅由美
小島 里美
平尾佐江子
平尾 純子
西村 菜津子
西村 涼子
小林 理香
松本 晴明

I はじめに

肺腺末期透析患者のリビングウィルに関する研究を経験してきた。透析導入後数年を経過した時点での身体的状態を考慮した上で、リビングウィルの制定は重要である。リビングウィルは、末期臓器障害患者における治療方針を事前に記録し、治療を受ける際の意思を尊重するための手段である。リビングウィルは、末期臓器障害患者の生活質を向上させ、患者の人生を豊かにするために不可欠である。

II 患者紹介

60歳女性、独居、家族に同居していない。家族の介助は行わずに生活している。

III 経過

当院入院後のリビングウィルの作成

リビングウィルの作成は、患者の意思を尊重し、治療方針を事前に記録するための手段である。リビングウィルは、患者の意思を尊重し、治療方針を事前に記録するための手段である。

IV 考察

リビングウィルの制定について

リビングウィルの制定は、患者の意思を尊重し、治療方針を事前に記録するための手段である。リビングウィルの制定は、患者の意思を尊重し、治療方針を事前に記録するための手段である。